

演題番号13	幻聴・妄想の強い知的障害患者への看護 ～対象理解から対処行動に至るまで～
発表者	府中市立湯が丘病院 看護師 石出 貴志
共同発表者	吉永 幸弘, 藤木 梨恵, 唐椀 泰穂

知的障害は精神遅滞とも表され知的発達障害で、知的・適応機能に基づいて軽度、中等度、重度、最重度に分類される。

A氏は軽度知的障害で統合失調症を患い、症状が安定せず病棟内での生活が長く続いている。そのため、社会性の欠如や認識力・判断力の低下、また、幻聴や妄想に左右される事が多く何を伝えたいのか、症状に対してどう対処すればよいかわかっていなかった。

そのことから、A氏が何を伝えたいのか、何故不穏行動をとるのかを鑑みて、カンファレンスやグラフの作成、面接や不穏行動に関するフィードバックを行った結果、対象理解や微小ながら対処行動を行うきっかけとなったためここに報告する。

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---